目次

第一章　一大センセーション始まる　7
第二章　センセーションは続く　17
第三章　ウラルの惨事　31
第四章　巨大な湖を汚染する　41
—湖、水草、魚類の放射能汚染
第五章　一千万キューリーの汚染　71
—ウラルの汚染地帯における哺乳類
第六章　惨事はいつ、どこで起ったか　95
—汚染地帯はチェリヤビンスク地域であり、核惨事の時期は一九五七年秋—冬であることを証明する
第七章　渡り鳥と放射能の国外への拡散　103
—放射性生物群集における鳥類と放射能の国外への拡散

第八章　死滅した土中動物　123
—ウラルの汚染地帯における土壌動物
第九章　森林の様相は一変した　137
—ウラルの汚染地帯における樹木
第一〇章　草原植物の放射線遺伝学　161
—ウラルの汚染地帯における草原植物と放射線遺伝学の研究
第一一章　生き残ったクロレラ　169
—放射線環境における集団遺伝の研究
第一二章　CIA文書は語る　179
—ウラルの核惨事に関するCIA文書
第一三章　核惨事のシナリオ　197
—ウラル核惨事の原因、一九五七—五八年の出来事を再構成する一試論
専門用語の解説　235
資料編　243
文献と注　265
訳者あとがき　281

装幀・勝木雄二